

■証空(西山上人) 念仏僧。公卿と直結していたことから、法然門下最大の浄土宗西山派の祖になった。

しょうくう

鹿ヶ谷事件・1177= 京都で、加賀権守源親季の長男に生まれる。

源氏一斉蜂起1180= 3歳：

幼少から聡明で、

平氏滅亡・・・1185= 8歳：_内大臣久我通親の猶子となるが、

九条兼実摂政1186= 9歳：

奥州藤原滅亡1189=12歳：

源頼朝上洛・1190=13歳：元服にあたり、_通親の反対を押し切って、法然房源空の門下となり、得度。

東大寺再建完1195=18歳：

_源空門下にあつてはつねに重要な地位を占め、

・・・1198=21歳：源空が九条兼実の請いによって「撰撰本願念仏集」を撰述すると勘文の役を受け、

源頼朝没・・・1199=22歳：_源空の代理として、九条兼実の邸で講座をもつ。

梶原景時征討1200=23歳：九条道家のために「観経疏私記」を著している。

さらにその地位を示すものとして、

執権政治始・1203=26歳：

源頼家暗殺・1204=27歳：_七箇条制誡文では門弟中、第4番目に署名を行った。

源空のもとで23年を過し浄土教の研究に励み、師の推薦で、磯長の願蓮から天台止観を、法曼院政春から真言を学び、天台座主慈円に従い、のちに公円から灌頂法を受けるなど諸方に遊学。

方丈記・・・1212=35歳：_源空の示寂後は、はじめ洛東小坂に住していたが、

北条頼朝確立1213=36歳：

_慈円の嘱を受けて西山善峰寺北尾往生院に移り、

榮西没・・・1215=38歳：この年から、往生院を拠点に、*善導の著述の講説をし始め、

これらのことから、証空の宗義は小坂流(義)とか西山流(義)といわれるようになるが、

・・・1217=40歳：_仁和寺経藏で中国の善導の「般舟三昧行道往生讚」の序文に出会い、いよいよ深く浄土教に帰依。

承久の乱・・・1221=44歳：

・・・1222=45歳：

北条政子没・1225=48歳：

道元曹洞宗始1227=50歳：*この年まで、京洛内外30数ヶ所を往復して、ほとんど連日講説し、その記録がのちに、「観門要義鈔」としてまとめられる。嘉禄の法難に際しては、信空とともに、流罪を免れ、

・・・1229=52歳：奈良當麻寺に参詣して「観経曼荼羅」を拝見し、以後、その流通に努め、

・・・1231=54歳：

御成敗式目・1232=55歳：

・・・1240=63歳：

鎌倉大仏完成1243=66歳：*宮中で後嵯峨天皇に円頓戒を授け、先に創建した白川歙喜寺は官寺となり、近江の小野荘が施入された。このほか、_撰撰津武庫川に浄橋寺を創建するなど大いに活躍した。また貴族の帰依も厚く、九条道家は法性寺内に遣迎院を構築して、証空の教化の便をはかった。

北条時頼執権1246=69歳：

宝治合戦・・・1247=70歳：*道覚法親王のために「鎮勅用心」を、皇太后のために仮名法語「女院御書」を著し、病に冒され死期の近いことを悟ると、門人を集め法を説き、「阿弥陀経」をともに講し、没した。

弟子に証入・証慧・隆信らがいる。諡号は鑑知国師。著作に「観経秘訣集」20巻、「曼陀羅註記」十巻、「撰撰密要訣」「四十八願鈔」などがある。